

昭和51年5月9日第三種郵便物認可（毎月1回1日発行）昭和51年10月1日発行 通巻59号

ヒマラヤ

HIMALAYA

1976年10月号



日本ヒマラヤ協会——HAJ

HIMALAYAN ASSOCIATION OF JAPAN

HAJヒマラヤ集会

＜東京定例会集＞— 予定 —（無料）—

毎月第4金曜日 18時30分～20時00分頃
毎月第1金曜日は、自由集会です。ヒマラヤに関する個人的な相談・ご友人との打合せなどにHAJ東京事務所をご利用下さい。なお、毎週金・土の13時～20時まで事務所はご利用できます。

10月22日 ネパール・トレッキング情報
11月26日 アッサム、ビルマ、ダーズリン
12月3日（第1金曜）（24日は休み）

ネパールの旅、トレッキングのガイド
HAJの「ネパールへの旅」（600円）の本持参のこと。

52年1月28日 アフガニスタンの山（ワハン隊速報）
2月25日 中央アジアの山々
3月25日 インド・ヒマラヤ情報

＜北海道定例会集＞— 予定 — お茶代・実費

毎月第1月曜日 18時頃から、札幌市北1西4棟向喫茶「ねむの木」の3階特別室でおこないます。

奇数月定例、偶数月自由集会

問合せ先 大崎正信理事

秋のヒマラヤ集会予告

10月9日(土)、10日(日)、11日(祭) の2泊3日。
ハケ岳山麓中央高原、樅の木荘および阿弥蛇岳登山などハイキングも含めておこないます。詳しくは「ヒマラヤ」56号をごらん下さい。宿泊人員40名で切り切ります。HAJ名古屋事務所へお申込み下さい。
会費大人9,500円 小人 6,500円

＜名古屋定例会集＞— 予定 —（無料）—

毎月第2金曜日 18時30分～20時00分頃

於：名駅前 ホテル・ニューナゴヤ747号
（7階）エア・インディア名古屋

10月は休み

11月12日 アッサム、ビルマ、ダーズリン

12月10日 ネパールの旅アドバイス

HAJの「ネパールへの旅」（600円）の本持参

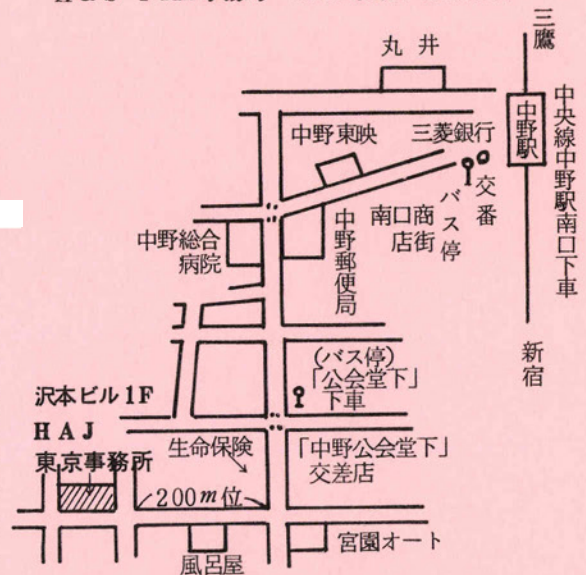
52年1月21日（第3金曜）（14日を変更）

アフガニスタンの山（ワハン隊速報）

2月18日（第3金曜）（11日を変更）中央アジア

3月11日 インド・ヒマラヤ情報

H & S Plan 事務局 = HAJ東京事務所案内



ヒマラヤ10月号目次

- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| ・HAJヒマラヤ集会 | ・HAJ名古屋第2回親睦登山 |
| ・HAJを考える—（その3）..... 1 | 御岳 — 濁河温泉より 12 |
| ・パゴダの国、ビルマの1週間 2 | ・HAJ名古屋集会報告（その1）..... 13 |
| ・ヒマラヤ関係地図=市販リストから 5 | ・HAJ名古屋集会報告（その2）..... 13 |
| ・H & S Planのページ 7 | ・日本からヒマラヤから—読者だより..... 14 |
| アルナチャル—太陽の昇る山の国 7 | ・アッサム研究会だより 16 |
| ・IAA（国際芸術家協会）ネパール委員会訪問記 7 | ・第5回ビスタリークラブ集会開く..... 16 |
| ・＜ヒマラヤ閑話＞花の谷(1) 8 | ・＜ミニ・ニュース＞地方・小出版流通センター16 |
| ・ロングスタッフのサルトロ峠越え 9 | ・新刊・旧刊 17 |
| ・Bikal D. Sherchan 来日 10 | ・ヒマラヤの本・資料 18 |
| ・清水澄氏（HAJ）マナスルへ遠征 10 | ・HAJ 1976～1977 ヒマラヤ・ツアー 19 |
| ・ヒマラヤに関する質問と解答 11 | ・山里先生と共に—ネパール・スケッチの旅..... 20 |

< 創立 10 周年をひかえて >

H A J を考える — その 3

— ヒマラヤとシルクロードの何に興味? —

900 名に近い H A J 会員が全国に分布しているように、会員のヒマラヤへの志向も実に多様です。その多様さが H A J という組織の一大特性と言えるでしょう。

これから H A J はもっとたくさんの会員を迎え、一層活動を強化し、会員の期待に応じて行かねばならないのは当然です。

会員がヒマラヤの何に興味を持っているかについてはいろんな集会の折などに話し合われ、また事務局においてもできる限りその多様さにマッチする活動を展開しようと努力しております。機関誌「ヒマラヤ」もそのような意図で編集しています。

では、まだ H A J に入っていないがヒマラヤ或いはシルクロードに興味を持っている方々は、一体それらの何にひかれ、何を求めているのでしょうか。これらのことを認識することは会員を更に増やすためにも非常に有効だと思われます。

以下は主として H A J 会員外の約 1000 名へ出したアンケートの「ヒマラヤとシルクロードの何に興味をお持ちですか」という設問に対する解答です。山、登山、トレッキングと解答したものは意外に少なく数人でした。あとはごらくのような多様性を示しています。H A J はヒマラヤの山だけを目的にした会ではありません。ヒマラヤをめぐる一切のもの或はその一部に興味のある人の集りです。

山もその対称であるという訳です。

バラエティに富む、会、会員の活動をすすめて行きたいものです。よろしくご協力下さい。当面は新しい会員の加入を強力にすすめます。ぜひいろんな分野の人をご紹介下さい。

- ◎宗教文化 ◎モスクのタイル ◎トレッキング
- ◎タクラマカン砂漠 ◎氷河 ◎山
- ◎人と古い町の歴史 ◎民族と文化の交流の歴史
- ◎7000 m 級のカラコルムの初登頂、調査、探検
- ◎住民と炉端で話をしたり酒をくみかわす。
- ◎ヒマラヤの景色を眺めること、そして登る。
- ◎小人数で 1 カ月位で登れる山
- ◎今日のシルクロード ◎ヒマラヤの未踏峰

◎シッキム、ラダック、イラン、シルクロード、イラク、チベット、ビルマへの旅

◎自然 特に植物など ◎山岳と人と文化

◎シルクロードをつくりあげた周辺民族の文化パターンと現状の比較 ◎シルクロードの一切

◎民族の生活 ◎自然と人間と歴史 ◎カースト

◎種族と宗教との関連および若年層の考え方、

◎風俗 ◎建築、民家、街 ◎宗教と社会生活

◎ヒマラヤの生物 ◎ヒマラヤの高山植物

◎シルクロードの遺跡 ◎天山の探検史

◎社会・村落の共同体の形態 ◎言語、美術

◎風土と住民の価値観 ◎秘境らしいところ

◎高所登山 ◎古代遺跡 ◎ヒマラヤの全部

◎いかに自然との調和または克服をしているかを知りたい ◎エベレストを見たい

◎中央アジア民族語研究（ウズベク、カザック、トルコマン、ウィグル、チベット、ロンなど）

◎歴史の旅 ◎ヒマラヤの岩壁登攀

◎応用地理学的に関心がある ◎シルクロード文化史、歴史 ◎民族音楽 ◎歴史地理

◎弥次馬的あこがれの地 ◎学問的でなく、ヒヤカシでもなく、とにかく興味あるところ ◎ロマン

◎山の美しさ、人情のこまやかさ ◎未知

◎古代の東西文化交流の道を一度歩いてみたい

◎きびしすぎる自然 ◎大自然の厳しさ

◎先人の文化遺跡 ◎動物・植物 ◎日本人と彼らの関係はどんなものであったか。<H A J 事務局>

■■■■■■■■ H A J 会員募集 ■■■■■■■■

H A J の活動充実、会員サービス向上のためには会員数の増大が基本となります。H A J はやがて創立 5 周年を迎えます。これを期に大巾な会員増にとり組みますので、ぜひ皆さんの周辺でこの人という方に入会を勧めてください。入会申込書、「ヒマラヤ」などを送りますので、名古屋事務局までお知らせ下さい。H A J の楽しさ、メリットなど多くの人に知らせてほしいと思います。会員数と事業量のアンバランスで今が最も苦しい時です。ぜひともよろしくご協力下さい。

“パゴダの国”——ビルマの1週間

沖 允 人

第1日目 バンコックからラングーンへ

ビルマの主都、ラングーンへ行くにはバンコックから飛行機で入るのが一番便利である。他のルートとしてはBOAC（イギリス航空）がホンコンから直行便をとばしている。インド方面からだとかルカッタから入るルートがある。いずれにしても通常の旅行者は陸路でビルマに入るのは禁止されている。

バンコックから約1時間のフライトはベンガル湾の東端の海を眼下にし、北上しながらラングーンへむかう。ラングーンが近ずくと、シッタン川が蛇のようにうねり、その間に畠と森林が広がっている熱帯の風景が飛行機の窓から見え、やっと来たなという感慨に胸がときめく。東南アジアの中でもビルマ入国は、現在はなかなかめんどうなのである。

ビルマへ入るための準備

ビザは観光目的の場合7日間しかもらえない。入国後の延長はよほどのことがないと認めてもらえない。このビザをもらうためには旅行日程、ビザ申請書、パスポート、写真3枚をそえて申請する。旅行日程は飛行機の便名と時間、行先のホテルの住所などを書いたできるだけ詳しいものがよい。場合によっては予約済の航空券または航空会社の予約確認書が必要になる。これらの書類などを、ビルマ大使館に持参する。代理申請も可能である。ビザ発行印紙代 1,500 円を払う。書類などが完全なら3～5日間でビザを発行してもらえ。自分で申請してもよいが、手続や書類作り、大使館へ行く手間を考えると、旅行社へたのむ方が結果的に安上りである。

予防注射は種痘とコレラが必要である。

ラングーンのホテル

ミンガランド空港に着き、入国手続、通関手続を済ませて外に出るには1～2時間かかる。通関はきわめて厳しく、特に外貨の申告は全額、こまかく申告させられる。この申告がないと不法外貨持込みとみなされるし、大きいホテルなどの現地通貨への交換に不便である。こういうきびしい為替管理をしている国の通例として公式ルートとヤ

ミルートの差は大きく、ラングーンでは3倍近くにもなっている。しかし、悪質なヤミドル屋も多いので引っかけないように注意することである。

空港からホテルへはタクシーで行くことになる。ガタガタのジープやオンボロ中古車しかない。市の中心まで15～20パーツである。（1パーツ＝0.15ドル＝約45円）、ラングーンで冷房のきいているホテルは次の3つほどある。

① 空港から近く、インヤ・レイク（Inya Lake）という湖の近くにあるインヤ・レイク・ホテルが一番立派である。レストランも大きく、料理も多種である。しかし、市の中心部から遠いので、市内に出るたびに20チャット位とられる。受付の女性には日本語が上手である。

② ストランド・ホテル（Strand）は市の中心、ビルマ航空の事務所の近くにあり、どこへ行くのにも便利がよい。食事はうまいが、インヤ・レイクホテルと同じくらい高い。ホテル代はインヤ・レイク・ホテルも、ストランド・ホテルも食事なしで1泊3000円～4000円（シングル）である。

③ ラングーン駅の近くにあるタマダ・ホテル（Tamada）は安くてよい。ただし、部屋が小さく、冷房のききが悪い。1泊、シングルで1500円位である。タマダとはビルマ語で「大統領」の意味である。

もっと安いところはステーション・ホテルとかYMCAなどがあるが、1月でも最高31℃位になるのだから暑さに参って7日間の滞在を有効に使えないのは損だから、上記3つのうちのどれかに泊る方が無難である。第2日目はラングーンの市内見物をして過すことになる。

パゴダの国

第3日～第5日目はパゴダをたずねる旅に出ることになる。

ラングーンの黄金のパゴダ（仏塔）、シュエダゴン・パゴダをNo.1とし、スーレ・パゴダ、そして40kmほど東の大臥仏像のあるペグーのパゴダなど沢山のパゴダがある。日本のお寺と違って明るい色が塗ってあるので感じがかなり違うが、お参りしているビルマ人は大変敬けんな祈りをささげ

ている。

マンダレーにあるパゴダも大きくて美しい。ただ、1000段以上も階段があるので暑いときは登るのが楽ではない。

古都パガンは500以上のパゴダがあるところであり、訪れる価値がある。パガンやマンダレーには1日1便ほど飛行機がとんでいる。ラングーンへは汽車でも行くことができる。丸1日かかる。

ビルマの人たち

戦争中、日本人と一緒に働いたりした人が多く日本語を話す人もときどきある。対日感情は非常によい。いわゆるビルマ族は全人口の50%しかなく、残りはカレン族、シャン族、チン族、そして北方高地のカレン族などからなっている。外国人もインド人が5%近くおり、中国人も1%位いる。これら外国人はほとんどラングーンに住んでいるのでラングーンではインド人、中国人をよく見掛ける。中国料理店も多い。ただし、ちょっと入るのをためらうような汚ない店が多い。

政治は社会主義国家を目指す唯一の政党、ビルマ社会主義計画党（Burma Socialist Programme Party 略称 BSPP）によっておこなわれているので、何でも国営で、資本主義国とかなり勝手が違う。

足でこぎ舟

マンダレーから飛行機で一時間足らず東へとぶとヘーホーという飛行場がありその近くにインレーという湖がある。ここは足こぎ舟で知られたところである。足の間に、ひざでからむようにカイをはさみ、舟をこぐのである。しかし、最近ではモーターボートに変わりつつある。この湖には草でできた島「浮島」があり、その上に土を運んで島にするといい風習がある。インドのカシミールにある Floating Garden と同じものである。インレー湖は標高が2500mほどあるので夏でも涼しい。さらに東へ行ったタウンジーの街にはストランド・ホテルといういいホテルがある。この町にはシャン高原各地から特有の服装をした村人たちが商売にバザールにやってくるので、その見物も興味深い。ターバンのような布を頭にまき、刀を腰に差している。アッサムの山地民族に近いようである。

マンダレーとタウンジーをむすぶ線あたりから北へは治安がよくないので外国人は立入禁止にな

っている。ミートキナなどを訪れると北方の雪山も見て面白そうだが、残念ながら現在は不許可である。

土産物

第6日目はラングーンに再び帰り、土産物やビルマダンスを楽しむとよい。

ビルマの宝石は良質で安い。銀製品もよい。そして、チーク材や黒たんの木の木彫品がビルマらしくてよい。「ビルマのタテ琴」も売ってはいるが、今では古典的楽器となってしまう、あまりひかれていないようである。

ロンジーというロングスカートをも男も女も着ているが、その服装をした人形など面白いかも知れない。ビルマはいわゆる観光地としてはまだまだであるが、そんな外見的なものより、ビルマ人の豊かな心に触れることが大切なのではなからうか。

最近出た本

「ビルマ」日本国際問題研究所 S 49.10. 10
430 円

「パゴダの国」NHKブックス

第7日目 いよいよビルマ最終の日になる。ビルマ航空は時間が不正確なのでそのつもりで空港へ行くことである。国際線の乗物の2階にはレストランがある。売店はタバコぐらいしか売っていない。従って、余ったチャットは銀行でドルに再交換する。入国時の申告書に両替証明がついていれば再交換してくれる。出国の検査もなかなかきびしい。そして、再びビルマの空へと舞い上るのである。

ビルマとダージリン・ツアー

東部ヒマラヤの一端を東側と西側より触れることができる興味深いツアーです。

申込み＝H A J 東京

- 第1日 東京より空路バンコックへ。
- 第2日 バンコックより空路ラングーンへ。
- 第4日 ラングーンより空路、古都パガンへ。
- 第6日 パガンより空路 マンダレーへ。
- 第8日 マンダレーより、空路ラングーンへ。
- 第9日 ラングーンより、空路カルカッタへ。
- 第10日 カルカッタより、空路バグドグラ。
- 第11日 ダージリン市内観光。
- 第12日 バグドグラ、カンチェンジュンガ遠望。
- 第13日 ダージリンより、空路カルカッタ。
- 第14日 カルカッタより、東京へ、通関後解散。

GOVERNMENT OF THE SOCIALIST
REPUBLIC OF THE UNION
OF BURMA

IMMIGRATION DEPARTMENT
APPLICATION FOR TOURIST VISA

1. Name if full: Masato Oki
2. Father's Name in full: Toshio Oki
3. Nationality: Japanese
4. Sex Male
5. If naturalized; Date, Place of Naturalization and former Nationality: None
6. Date, Place of Birth: 03 Jan. 1935., Hiroshima, Japan
7. Visible Marks of Identification: The yellow race with glasses
8. Height: 5 Feet 9 Inces
9. Marital Status (Single or Married)
Married
Michiko Oki, 44-7. 1-Chome,
10. If married, Name and address of Spouse: Hitotsuyama, Tenpaku-ku, Nagoya, Japan
11. Occunation or Profession: Lecturer of University, Japan
12. Applicant's Address:
 - (a) Permanent: 44-7 1-Chome, Hitotsuya-ma, Tenpaku-ku, Nagoya, Japan
 - (b) During stay in Burma: "o Japanese Embassy, 39, Golden Valley, Rangoon, Burma
13. Particulars of Passport:
 - (a) No. and Date of Issue PME 014738, 29 Jan. 1971
 - (b) Authority and Place of Issue Foreign Affairs, Tokyo, Japan
 - (c) Date of Expiry 28 Jan. 1976
 - (d) Countries for which Passport is valid All over the world except East Germany, North Korea, China
14. Expected Date and Port entry into Burma: 25 Sep. 1975, Rangoon
15. Intended Duration of Stay in Burma: 7 Days
16. Proposed Date of Departur from Burma: 01 Oct. 1975
17. Name and Dates of Birth of minor children if accompanving: None

	Name	Sex	Date of Birth
(a)			
(b)			
(c)			
(d)			
(e)			

18. Evidence of Booking for out ward journey:
As attached sheets
19. Travelling Agency or Tourist Bureau to be referred to in Burma: None
20. Have you ever applied for Tourist Visa for Burma before? When? None
21. Have you ever been in Burma? None
If so under what visa?
22. I hereby declare that the information furnished above are correct to the best of my knowledge and belief. I also hereby pledge that all the expenses incurred in Burma will be self supporting and that I shall not engage myself in any employment or any business, paid or unpaid or arrival or during my stay in Burma.

Place and Date

13. Jun. 1975, Tokyo, Japan Signature of Applicant

- Note: (1) The tourist Visa shall be utilized within three months from the date of issue.
- (2) An applicant shall submit four copies of his photograph (Size 11/2"×2") with the application in triplicate.
- (3) The possession of the Tourist Visa is no guarantee for the holder's entry into Burma unless he conforms to the immigration and health requirements.
- (4) The holder of the Tourist Visa shall leave Burma before expiry of the visa.

以上がビルマの観光ビザ取得のための申請書の記入要領である。用紙はビルマ大使館でもらえ、17項までとそれ以降とでA 4版、2ページになっている。ビザ発行後、3カ月以内に入国すればよいので、日程と見合せて早目に申請しておくことである。

ヒマラヤ関係地図——市販リストから

このほど丸善から「海外地図・ガイドブック目録」が出された。このカタログには、世界27カ国の著名出版社110社から出版されている、約100カ国に及ぶ地図・ガイドブック550余種を収録している。特に山岳地図類は、地域ごと（ヒマラヤ・アルプス・北アメリカ・南アメリカ・アフリカ）にまとめて載せられているので見やすい。我が協会に関係の深いものは、次のとおりです。希望者は、丸善に注文すれば送付してくれる。（記載の代価は、1976年5月現在の円定価。）

Afghanistan, Physical Political-Economic 1:2,000,000(Country).....	¥700
Bartholomew'World Travel Map Series; Indian Subcontinent.....	¥670
Delhi City Map.....	¥750
General Atlas of Afghanistan.....	¥14,000
Kabul. 1:20,000.....	¥490
Nepal (No4235) 1:1,400,000.....	¥420
Nepal 1:506,880. 2 sheet. (GSGS U462).....set	¥1,200
Nepal. (Series ONC Sheet H9) 1:1,000,000(G.S.G.S.).....	¥1,230
Road Map of Pakistan. Scale 25 Miles to 1 inch. (1:1,584,000). Lateted.....	()
Tourist Map of Deihi.....	()
Railway Map of India. (Survey of India).....	¥800
Road Map of India, 2 sheets.....	¥1,000
Road Map of Pakistan (Survey of Pakistan).....	¥1,200
Phillipines 1:1,500,000(Bureau of Coast & Geodetic Survey, Manila).....	¥1,380
Tourist Map of Thailand (Tourist Organization of Thailand).....	¥120
Bartholomew's World Travel Map Series.:	
Pakistan, Bangladesh and Sri Lanka. 1:4,000,000.....	¥670
South-East Asia. 1:5,800,000.....	¥670
Nepal. 1:506,880. 2 sheets (E. Stanford).....	¥1,200
Williams, L.F.R.(ed.)-A Handbook for Travellers in India, Pakistan, Nepal. Bangladesh and Sri Lanka. (Murry).....	
Fordor's Modern Guides:India. 1976/77 (Hodder & Stoughton).....	¥4,060
Guide to Deihi. (India Tourism Development Corp).....	¥1,000

India on \$5 and \$10 a Day 1974-75, By J.Wilcock and J.Aron. (Simon & Schuster)

India on \$5 and \$10 a Day 1974-75, By J.Wilcock and J.Aron.

(Simon & Schuster)..... ¥1,290

Nagel's Encyclopedia-Guide: India and Nagel. (Nagel).....¥11,520

Nepal. By T.Hagen. (R.Hale).....()

AMS 1:250,000. 19 sheets, 1 colour, contoured.

(West Col Productions).....set ¥24,920

Mastuji-NE Hindu Kush, altit-Rakaposhi, Rakaposhi, Batura Karakorum, Gilgit-Nanga Parbat. Mundik-Haramosh, Masherbrum, Saltoro, Chulung Saltoro Muztagh, Masherbrum, Siachen, Saltoro. Stinagarale of Kashmir, Nanga Parbat approaches. Kargil Muztagh. Palampur Zeskar range, Kulu/Spiti, Deo Tibba. Tso Morari-Spiti/Zaskar. Simla-the foothills. Chini-Garhwal Himalaya, Leo Pargial Sri Kailas. Nanda Devi-Trisul, Kamet, Abi Gamin, Ganesh Parbat Changabang. Pokhara-Dhaulagiri, Annapurna. Jonglha Dzong-Manaslu, Ganesh Himal, Himal Chuil. Katomandu and surroundings. Mount Everest-Gauri Sankar. Kanchenjunga-Makalu, Darjeeling. Phari Dzong-Sillim Chomolhari.

Carta dei K2. 1:25,000..... ¥650

Dudh Kosi, Approaches to Cho Oyu, Everest, Makalu, 1:50,000..... ¥3,510

Everest.....¥1,030

Garhwal-Himalaya-Ost. 1:150,000..... ¥3,200

Gauri-Shankar East. 1:50,000.....¥3,510

Gauri-Shankar West. 1:50,000..... ¥3,510

<ミニ・ニュース>

ネパール旅行制限区域一部解除さる

ネパール国務省の発表（5月27日付）によるとこれまで2年前より一時的に禁止していた外国人旅行区域のうち、ムスタン地区の Dana, Iate, Jomsom, Kagbeni, Muktinath をカンパ族の不法行為がおさまったのという理由で、再び外国人にオープンした。これに伴って、トレッキング許可もカリガンダキ川沿いの北上ルートが可能になった。

（なお、さらに新しい情報は12月号「ヒマラヤ」でお知らせします。

Nepal Yak Hotel の S, Bhattachan の便りより）

第8回日本ヒンズークシュ・カラコルム

会議開催予告——11月6～7日

場 所 愛知県蒲郡市竹島海岸「ホテル竹島」

会 費 8,000円（登録会員7,000円）

申込先 〒443 蒲郡市旭町

鈴木常夫

会議日程

11月6日 13時 開会、挨拶、自己紹介、51年度登山隊報告約20隊、懇親会など

11月7日 K2 計画、「現地情報」「アフガニスタンの17年」（橋本亮一）、「現実のイスラム法」（湯浅道男）、52年以降計画発表、など。

15時 閉 会

■■■■■■■■■■ アルナチャル ― 太陽の昇る山の国 ■■■■■■■■■■

東 部 ヒ マ ラ ヤ 研 究 会

アルナチャル・プラディシュ州政府は、“The Land of Sunrise Mountains”（太陽の昇る山の国）と、アルナチャルをPRしている。カメン（Kameng）地区のボムビラ（Bombila）にツーリスト・ロッジ兼、観光案内所を開いたのを初めとし、タワン（Tawang）とボムビラ間のディラン（Dirang）にも観光客用の宿舎を建てた。

ロヒット地区のロイン（Roing）の近くにあるサリー湖、イタナガール（Itanagar）などの整備もしている。イタナガールはアルナチャル・プラディシュの新しい主都となったところである。

州政府の観光局は今のところシーロンにあるがそこと入域の可能性について連絡をとったところ外国人入域許可はインド外務省にあり、州政府にはその権限はないということであった。

Lt. Governor の K. K. Raja 氏の秘書、Khaund 氏からの返事でも、同様であった。しかし、アルナチャルに関する情報や出版物は送るといふ好意ある手紙がきた。アルナチャル州政府は月刊の官報ともいふべき「Arunachal News」を発行しており、これも送ってもらえることになり、アルナチャルの情報は早く知ることができることになった。

ぜひ近いうちにアルナチャル入域を見指し、そして、ビルマへ抜けるH&S Planのコース実現のために努力したい。

このための事前調査を来る12月26日から14日間
おこなう予定です。アッサム調査隊の一部として
おこないます。詳しくはH A J 東京事務局へお問
い合せ下さい。

I A A (国際芸術家協会) ネパール委員会訪問記

藤江幾太郎

昨秋、ネパール旅行の際首都カトマンズにあるネパール美術協会（N A F A，I A Aのネパール国内委員会）に、事務局長（正式には First Secretary）マイナリ氏を、N A F A会員の青年画家シン氏の案内で訪れた。

N A F Aは西歴1965年創立、会長はビレンドラ国王、副会長は美術カレッジ校長、事務局局長マイナリ氏（同氏は彫塑家）。

会員数150名、会の運営は政府予算と有志の寄附により、個人会費は徴収しない。

NAFAの展覧会は年1回、同所にて開催される。NAFAの建物は王宮から車で十分位、木立の多い広い庭園は静寂、洋風白亜の大殿堂である。

昨年の出品目録（ネパール語）によると、出品
 点数は絵画139、彫 塑69の計208。ヒマラ
 ヤン・アートと云われる宗教関係のもの夫々30点
 のほかは一般洋画と彫塑、モダンアートも少く

い様だ。(目録の題名とシン氏の話と合せて)。同展にはピレンドラ国王も油絵二点を出品されている。

N A F Aはまた、個展会場（N A F A内）や、美術材料の一括購入、斡旋、国外留学、作品紹介など種々努力している。

マイナリ氏は以上語った後、日本に対し発展途上にあるネパールの文化面に対しても絶大な援助を希望してやまないと結んだ。

このあとシン氏（30才）のアトリエに行った。彼はボンベイ美術学校在学中は抽象作品を描いていたが、近年は曼蛇羅をモチーフにした半具象の仕事に移っている。西欧の芸術をネパールの伝統と風土の上にどう融合、発展させるかが大きな課題だと力説していた。

(社団法人 日本美術家連盟機関紙
連盟ニュース 246号より転載)

花の谷 (1)

水 野 勉

1930年代にヒマラヤで活躍した登山家では、スマイス、シプトン、ティルマンの英国人トリオが目立つのは、その業績もさることながら、名文章で書いた本をいくつも出したことによるのであろう。スマイスの『The Kangchenjunga Adventure』『Kamet Conquered』『Camp Six』『The Valley of Flowers』、シプトンの『Nanda Devi』『Blank on the Map』『Mountains of Tartary』、ティルマンの『The Ascent of Nanda Devi』『Mount Everest 1938』『Two Mountains and a River』『China to Chitral』『Nepal Himalaya』などの本から、ぼくはヒマラヤを知ったのである。それらが単なる報告書で無味乾燥なものであったら、それ程、夢中になって読むこともなかったであろうし、ヒマラヤという化物みたいな巨大な地域に対してもこうものめりこむこともなかったであろう。文章の力、本の力というものを馬鹿にするものではないと思う。ヒマラヤの魅力を知ったのは、人間の文化であって、自然そのものに価値は存在しないのである。そこに美と喜びを見出したのは、文化なのである。したがって登山文化という言葉はむしろおかしいのであって、登山はそれ自体文化なのである。

話がそれてしまったが、スマイスの本の中で、ぼくが一番好きな本は「花の谷」である。じつに楽しい本である。その第一章の出だしからいい。

これは世界でもっとも高貴で、もっとも美しい山々の間で過した、幸福に充ちた四カ月間の物語である。

スマイスたちは1931年カメットを登頂した後、ダウリ谷のガムサリ村へと下り、ザスカル山脈をビュンダル峠で越え、アラクナンダとガンゴトリの二つの川の水源付近の山地を探索しようとしたのであった。そこで美しい花々をみて、すっかり魅きつけられて、かれは1937年にビュンダル谷へ戻った。この山旅は大きな登攀からは解放された気楽な山旅であった。マナ・ピークの登頂、ニ

ルカンタ、ドウナギリの試登はあったにせよ、その山旅は花を求めての楽しいものであった。スマイスはこの本では珍しく写真をすべてカラーにして、ヒマラヤの花の美しさを読者に伝えようとしている。いまでこそカラーの写真を掲載した本は珍しくないけれども、1930年にはそんな本はめったになかったのである。その写真に合せて、スマイスの文章も楽しく、美しい。ヒマラヤの古典が数多く翻訳されていく今日、スマイスのこの楽しい本が紹介されないのはじつに残念である。それはこの本がヒマラヤのビッグ・クライムに関係ないからであろう。ケニス・メイスンの「ヒマラヤ——その探検と登山の歴史」の中でも、この山旅については、ほんの少しふれているだけで、無視しているといってもよい。登山史家としての見識であろうが、この点に関しては、どういう山旅をも逃さず、ヒマラヤの楽しい山旅をも抒情的に紹介してくれるマルセル・クルツの方に親しみが持てるのである。この楽しさあってこそ、ぼくの「ヒマラヤ編年誌」の翻訳もつづけられるのである。ぼくはマルセル・クルツの正確さと同時に、その抒情性が好きである。

ケニス・メイスンといえば、とうとう今年亡くなってしまった。89才の高令であるから止むを得ないにしても、一つの時代が終ったという感じが深い。クルツ、ディレンフルトとともに、ヒマラヤ研究のトリオが姿を消し、深田久弥氏もすでない。探検時代を知らない人びとの時代となったのである。メイスンの死亡は6月2日と聞く。

テーマである、「花の谷」のことにあまりふれずに紙数が足りなくなってしまったが、ヒマラヤは植物の種類が多く、花の宝庫である。古くはジョセフ・フーカーが1840年代にシッキムに植物を求めて入っている。そして、数多くのヒマラヤ植物の図鑑、それも大版のものを発行している。しかし、フーカーの場合は未だ探検の色彩が強く、楽しさが全面に出ていない。スマイスの場合は、ガルワルの谷間を自由に楽しく、心も軽く旅しているのである。

(つづく)

■ロングスタッフ のサルトロ峠越え

沖 允 人

ロングスタッフはサルトロ・パスを越したのは、1909年の夏のことであった。当時、サルトロ・パスのある地域は“地図上の空白部”であった。ヤングハズバンドが1889年にサルトロ・パスを越したが、そのときの報告はインド測量局の地図とは位置が大きく違っていた。ロングスタッフはサルトロ・パス越えにむかわせたのはこの違いを確かめてみたいという思いもあったからであった。

1909年という年はブルースのエベレスト遠征が中止になった年であった。ロングスタッフはエベレスト隊に加わる予定であったので残念な思いをしたのであろう。そして、またこの年にスコットの最後の南極探検隊が組織され、ロングスタッフも参加をしないかと呼びかけられたが、これを断わってサルトロ・パスへむかったのである。

“新しい谷をさぐったり、巨大な未踏峰へむかったりというような登山はヨーロッパ・アルプスではすでに過去のものになりつつあるが、高地アジアではそれらが未だ残っている。”とロングスタッフはサルトロ・パス越しの報告の始めのところに書いている。その報告の載っている Alpine JournalのVol.25 1911年5月号によって彼のサルトロ・パスへのパーティの行動を記してみよう。

パーティは Arthur Neve, Morris Slingsby との3人であった。ニープはスリナガールで医者兼宣教師として住民にボランティア活動をしていた。スリングスビーはシムラの第56国境警備隊々員であった。あとで、イギリス合同弁務官のD.G.オリヴァー大尉が合流してくる。全行程を全員が一緒に歩いた訳ではなく、それぞれが仕事の都合などで途中から合流したり、途中でパーティから分れたりしている。比較的自由な旅を楽しんでいたようである。

“私のこの報告は1人の登山家が探検家になろうとした物語であり、記録にとどめるような登攀活動はでてこない。しかし、カラコルム東部はほとんど知られていないところだったのである”

とロングスタッフは書いている。

<ゾジ・ラを越える>

1909年5月26日にゾジ・ラを越えた。現在では車が通っているが、当時はもちろん車道はなく、馬で越えたのである。そして、スリナガールから26日目の6月15日

にロングスタッフ一行はサルトロ・パスを越えた。インダス河の川岸にあるカールマンという村からガンゼ・ラを越え、シオーク河に下って、その支流サルトロ川を溯り、ゴマからピラフォンド氷河に入って、この峠に達したのである。峠は18200フィート(5547m)であり、ヤングハズバンドの報告のようにこの峠はカラコルムの主脈を横切るものであった。彼の報告が正しく、地図が間違っていたのである。

峠から4日ほど下ると大きな氷河に出た。それがシア・チェン氷河であった。

7月2日にサルトロ・パスを再び越えた。

ニープは6月27日に1人先に帰って行った。スリングスビーとロングスタッフはサルトロ川上流の氷河を歩き、7月12日にサルトロ山群をチュルング・ラ(18300フィート、5578m)で越えた。サルトロ・パスよりも困難であった。

8月初旬にヌブラ谷へ入った。このあとの約6週間をD.G.オリバーと一緒に歩いた。

Alpine Journal 1911年5月号の報告はここで終わっている。数葉の写真もある。

<サセル・カンリの偵察>

ロングスタッフはこの後半の6週間をサセルカンリ山群の踏査にあてた。そのことは彼の著書「This My Voyage」1950のカラコルムの章に詳しい。この本は「わが山の生涯」という題で望月達夫訳で白水社から1957年に出版されている。主な行動をこれらの本から抜き書きしてみると、

7月12日 チュルン氷河から峠をこしてシオーク河へ下り、7月20日ヌブラとシオークの合流点へ出た。

7月22日 チャラサの村で泊り、このあたりで渡河点をさがしたがなかなか見つからなかった。7月25日にやっとの思いでヤクと馬でヌブラ河を渡った。

7月28日 ポパチェの急な谷を登っていった。ここからチュルン峰(サセル・カンリのこと)に登ってみたいと思ったが、猛烈な吹雪が続いて、駄目になった。

8月4日 スリングスビーは休暇が切れたのでシムラへむかって帰っていった。後に、彼は1916年のメソポタミアの戦争で戦死してしまった。

8月12日 D.G. オリバー大尉が合流してきた。サセルカンリの北にあるサセル・ラを越えてみることにした。

パナミックから4日はどこかの峠に達した。そして、カラコルム峠までも足をのびした。

8月26日にはデブサン高原を馬で歩いた。

9月8日再びサセル・ラを越えてパナミックに帰った。

9月13日パナミックをあとにし、テラム氷河を見てからひきかえした。9月18日にオリバーはシムラへ帰って行った。

■■■ Bikal P. Sherchan 来 日 ■■■■■■■■■■

藤 江 幾 太 郎

6月27日夜10時、ポカラのビカールから電話で今、東京グランドホテルに泊っているとの連絡があった。突然のことで驚いたが、ホテルに彼を尋ねて次の事情が判った。

日本青年会議では次の国際会議を召集した。

「5th YOUTH CONFERENCE

6th JAYCEE YOUTH VOYAGE」

27 カ国56人が参加、ネパールからは同君の他ビラトナガルのラム・パトライ君2名であった。彼によるとその日程は次の通り。

6月12日 カトマンズ —— バンコック

13日 香港へ

17～22日 香港—横浜 JAYCEE (M. S. コーラル プリンセス) 本船には日本青年400名同乗 ——

22～26日 富山県高岡市他訪問

27～29日 第5回国際青年会議 (於：東京グランドホテル)

というわけで6月30日から7月6日までビカールは自由行動となるので、お世話させて頂く事になった。ところで、小生の方では相憎小田急個展(6.25～7.1)と横浜2人展(7.5～7)の最多忙時に当たり、広くHAJ在京会員にお知らせする事が出来ず残念であった。川喜田家にもやっと連絡出来、我々は、植竹理事他数名の手の届く方々で小集会を持つ事が出来た。特筆すべきは、彼ビ

カールの熱望に応える為の益子窯を見学した。宇都宮小島守夫氏宅に前日泊めて頂き、小島夫人にも大変お世話になった。7月3日益子の県窯業試験所を始め、製陶工程を詳に見学。その上、文化勲章受賞者、重要無形文化財の浜田庄司氏に面接、話を聞く事の出来た事は私としても倖であった。かくしてビカールの滞日予定はおわり、沢山の印象と日本の好意を持って6月7日、羽田発故国に向った。随分多忙な、しかし、楽しい一週間であった。

ビカール、プラサド、セルチャン は、ポカラバザールの実力者、タカリ一族のアムリツ、プラサド・セルチャンの二男、24才、カトマンズの名門トリチャンドラ・カレヅ卒。HAJ第1回例会ポカラ班に参加した私は、リーダー柴田会長に紹介され、同家に逗留した。当時ビカールは高校生、私の身の辺の世話をしてくれた人。以来、たびたび私は同家を訪れ世話になったが、ネパールからの来日が大変難しい中を、優秀なビカールが青年会議の代表をかちとったことは、同君の将来に大きく一与することと思う。

■■■■■ 清水澄氏 (HAJ) マナスルへ遠征 ■■■■■■

1975 HAJ ガルワル隊々長、清水澄氏は日本・イラン合同ヒマラヤ遠征隊の補強隊員として、ネパールのマナスル主峰(8156m)に遠征中。すでにベース・キャンプへ到着、登山中である。

同隊はイラン側10名、日本側10名の国際合同隊で、隊長・渡辺公平、登攀隊長・田村宜紀の各氏。11月中旬に帰国予定。以下、清水氏からの便り。

キャラバン途上10日目・ジガットにて

ブリガンダキ道は隊商路でないためアルガート・バザール以後、急に悪くなり、渡渉、架橋、フィックス工作と大変なさき。500人もポーターを通すことはえらいことです。

今、いるところは、JAC隊によって“上高地”といわれた河原の少し上流です。あと1週間でサマに着くかと思います。

ネパールの山は以前の通りの山域しかオープンされていません。 8月28日

連絡先 Mr. Kiyoshi SHIMIZU
c/o Hotel Lali Guras, P. O. Box 291
Kathmandu, NEPAL 11月10日頃まで

ヒマラヤに関する質問と解答

〔問〕年末・年始にかけてネパールへトレッキングに行く計画ですが、ネパールの祭日が多いとききましたが、休日はどうなっていますか。

〔答〕ネパールの年末年始の休日は12月29日が王様のたん生日で休み、土曜日が休みとなっていますので1976～1977年末年始にかけては 12月29日(水)休、1月1日(土)休みです。日本のような年末年始の休みはネパール政府はありません。日本大使館は上記に加えて12月28日～1月3日まで休みになります。

〔問〕カトマンズ到着後1日位でトレッキングに出発したいのですが……

〔答〕トレッキング許可、チャーター機、シェルパ手配、買物などを1日でこなすのは無理ですのでカトマンズで最低2泊3日みておかれる方がよろしいと思います。トレッキング会社到手配させれば1泊2日位ですみます。費用約3万円。

〔問〕ジョムソンからティリツオ方面へ入りたいのですが、許可はとれるでしょうか。

〔答〕現在、ジョムソン街道はタトパニ位までしか入れませんので、もしここに入れない場合、他のコースを考えておかれる方がいいと思います。例えばダウラギリ南面、グルジャカーニ方面、アンナプルナ南面、モディコーラ、ラムジュン南面など、2～3案を考えておくとういでしょう。

〔問〕シェルパを予約したいのですが、どのようにすればよいでしょうか。

〔答〕1976年よりシェルパの手配、トレッキング許可の申請はトレッキング会社を通さねばならないことになっています。従って、シェルパの予約もそのようにします。ただ、シェルパは特定のトレッキング会社に所属しているのが多いので、その会社へ予約申込をするのがよいと思います。HAJの場合、HAJ東京—フロンティア企画—エクスプレス・トレッキング社(NEPAL)というルートをとっていますのでHAJ東京へ申し込んで下さい。氏名・年令・出身地(同名の者が多い)が必要。キャンセルその他の連絡も同様にして下さい。ただし、正式に予約申込みをしますと前金が必要(料金の約30%)です。ですので同時にお送り下さい。(例シ

ェルパ1名を20日間やとう場合 $750\text{円} \times 20\text{日} = 15000\text{円}$ の30% = 4500円。キャンセルされた場合このお金は返されません。

〔問〕カトマンズで登山装備を借用または購入したいのですがどんなものがありますか。

〔答〕現地借用可能な装備はほとんど何でも借用または購入できるとお考え下さい。そちらで必要リストを作り、それをネパールへ送ってチェックしてもらう方が早道です。HAJ東京ツアー係にご連絡下さい。購入可能品目および値段は「岩と雪」48号・50号の附録をごらん下さい。

〔問〕航空運賃はどのような種類があるのでしょうか。

〔答〕普通の運賃はいわゆるノーマル・フェアですが、その他に下記のような割引があります。

イ、28日間以内で15名以上のグループ 約50%引
ロ、28日間以内で決められた条件 約30%引
イ)はGIT料金といい、たいていのグループツアーはこれを利用しています。HAJのツアーもそうです。
ロ)はFIT料金といい、申請は旅行社を通さねばなりません。

イ)その他、特別に割引いてくれる飛行機会社があり、50%～20%位とまちまちです。しかし、それなりの制約があります。詳しくはコース日程をそえてHAJ東京ツアー係へ。

〔問〕チベットの“タンカ”や“マンダラ”について知りたいのですが、よい参考書はありませんか。

〔答〕「天寿国曼荼羅の研究」青木茂 昭和21年、「曼荼羅図説」吉祥真雄 昭和10年、「仏教芸術の研究」平子 嶺著、中川他編 大正12年、「中央アジア仏教美術」水原堯栄、便利堂 昭和9年、「印度日記、仏教美術の原流を訪ねて」尾高鮮之助 昭和14年、などが知られています。

「チベットの文化」R・A・スタン、山口・定方訳 岩波書店 昭和48年も参考になります。

「中国ラマ教美術大観」逸見梅栄 東京美術 限定500部は、36000円と高いが入手可能です。

(O)

御 岳 — 濁 河 温 泉 よ り

沖 高 行 (山根小学校 6 年)

7 月 3. 4. 5 日に御岳山に行った。同行者は友だちの赤谷君、金子君、父・母、岩水さん、水野さん、須賀さん、豊田さん、ぼくを入れた子供 3 人、女性 2 人、男性 4 名の 9 名であった。車でうぬま経由で行った。

小坂の町をすぎ山にかかったところからガタガタ道でみんな頭や鼻などを打っていて、中にはアメをのみこんでしまった人もいた。けんせつ省はここまでも手がまわらないのか。1 時間 10 分はして、ついに再びはそう道路になった。やれやれであった。

午後 6 時 45 分、宿屋についた。水野さんのお世話して下さった『濁河保養所』は、新しくきれいであった。その日ははやく温泉にはいり、午後 8 時 20 分ごろねた。

つぎの日、午前 3 時におき、いよいよ登山開始だ。弁当を一つづつもって出発。暗いのでいっぺん道をまちがえたあとは順調だったが、硫黄のにおいのきついのはまいってしまった。

台風が接近していたので天気は悪くなるかと思ったが、神様のお助けか？青空も見えはじめた。ラジオのスイッチを入れたが聞こえたのが東海ラジオだけだった。

きつい登りが続き、金子君がダウンすんの状態見たいだったので、だいじょうぶかなあと思った。8 合目の「おたすけ水」のあたりで休けい。ハムなどを食べた。

そこからずい分のぼると、ついに、はい松帯になり、横ばいに松がならんでいた。石の多い道を苦労しながら、テクテク歩いていった。すると、今までへばっていた金子君がとつぜんやる気を出し、ズンズンズンズン歩

いていった。赤谷君もぼくも負けじと歩いて行くと、先にいていた父においついた。父に歩き方の楽な方法を教えてもらい、そこからスタコラストコラ歩けた。

しばらくいくと、小屋と池が見えた。「あっ、五の池だ」小屋の中をみたが暗くてなにも見えなかった。尾根を越し、三の池のがけの上で休けいをした。「さていくか」頂上の剣ヶ峰には時間がなくて行けず、「まりし天」の方へ登った。

休けいしたところからは隊を二隊にわけて出発した。トランシーバーで交信しながら行く。ぼく、赤谷君、金子君、父の 4 人が第 1 隊で、他の人が第 2 隊であった。父が言っていたように急げな坂が続き、ほんとうに心ぞう破りの道だった。そしてついに頂上について、あたりを見まわした。乗鞍岳、槍ヶ岳などが見え、後ろには剣ヶ峰が見える。

頂上に 30 分ほどいたがそのあいだあたりをながめたり、ねそべっていたり、おかしをたべて楽しんだ。

下りはすらすらと行け、すぐに『濁河保養所』についてしまった。と中、登りのときにくらくて見えなかった神社が見えおまいりしている人もいた。御岳は神様の山なんだなと思った。



御岳飛騨側頂上にて (第 2 回名古屋親睦登山)

H A J 名古屋集会報告（その 1）

御 岳 山 行

日時：昭和51年8月3・4日

梅雨のさなかの山行のため、天気を気にしながら、国道41号線をひたすら濁河に向けて車で飛ばす。悪路をあえぎあえぎ、やっと標高1,900mの温泉着。さっそく湯につかり明日のためにとまじめな行動。翌朝、真夜中の3時、頂上に向けて出発。まじめさが功をそおし、梅雨のつかの間の晴天に恵まれ、全員頂上を踏む…… キバ

ナシクナゲ、イワウメ等美しい花を咲かせた頂上で、スイカを食べて次の山行計画を練った。次回は11月下旬に奥三河の山歩きを予定した。打合せは11月12日の名古屋集会で開きます。



五の池と五の池小屋

参加者：6名・子供3名 計9名

宿舎の手配その他で水野治朗さんに大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

(I)

H A J 名古屋集会報告（その 2）

日時：昭和51年7月9日

PM 6.30—8.30

場所：エアースインディア名古屋事務所

参加者：沖 允人，増田秀穂，岩水竜峰
平岩功臣，塚田公二，森 秋正
水谷洋子，高 野，石坂陽子
耕井照和，羽根田一馬，フィダ夫人
ランジャン夫人（お子様2人，旧性，
羽根田さん）カシミールのフィダさん（旧性，勝さん）

現地の話，それに沖氏のカシミールのコラホイ登山やハラムク山群のスライドをまじえ、楽しい賑やかな集会となった。また、今夏インド・ネパールに旅行される人達との打合せおよび、細かい

旅行テクニックなどについても話しあった。

H A Jの各地のヒマラヤ集会はヒマラヤへ行く人、帰った人などなど、ヒマラヤの味がいっぱいつまった会です。お気軽にご出席下さい。特別な場合を除き無料です。

ヒマラヤに関する質問もヒマラヤ集会の機会をできるだけ有効にご利用下さい。(I)

東日本ヒマラヤ研報告書（宇都宮）予約受付中

10月末日頃に同書が発行されます。 予約価1,800円（送料共）（定価2,400円）。予約申込切は11月末日まで。1人5冊以内。なお、同研究会に参加された方は1冊無料で差し上げますが、ぜひもう1冊以上をご購入下さるようお願いいたします。H A J名古屋まで冊数をご連絡下さい。

日本からヒマラヤから——読者だより

◇ 今井二郎様

茅野市 6月18日

6月13日結婚式を挙げました。今後ともよろしく願います。(おめでとうございます。奥さんは「美雪」さんです。H A J)

◇ 中垣淑子様

川崎市 7月10日

「もんたにゆ」18号“山と人”をお送りします。この中のスケッチの一つ“ランダムの家”は、50年夏、ザスカル山群へ入ったときの絵です。

年末は山里先生のスケッチ・トレッキングに参加させていただく予定です。先生のご指導のもとに沢山、スケッチをものにしたいと思っています。(「もんたにゆ」18号入手希望の方は400円に送料140円をそえて下記へ申し込み下さい。

211 川崎市今井南町433

稲垣方 中垣淑子

◇ 菊地 薫様

福島 7月20日

先日、東日本ヒマラヤ研究会は楽しい会でした。そのとき、東部ヒマラヤ研の藤井さんと話したのですが、あれだけの活動を「ヒマラヤ」誌上などでやっているにもかかわらず、研究会員は彼一人といってもよいくらいの由、驚いたことです。

彼のように熱心にエネルギーを投入して、あれほど深く研究している人間を持ちながら、他にメンバーがいないのは残念でなりません。H A Jの今後を考えると、いや、H A Jだからこそ、東部ヒマラヤ研のような地味な活動の研究会を充実させて行かねばという気がしています。(後略)

◇ 湯上弘子様

名古屋 8月5日

H A Jの黒沢さんと8月初旬、八方尾根より針の木岳まで縦走してきました。その後、木崎湖の対岸にある民宿で泊りました。この宿は、大阪の井関さん(H A J)の知り合いで、昨夏より営業を始めた気持の良い家です。ご主人の但本さんは1昨年、H A J御岳集会のとき、マイクロバスを持ってかけつけて下さった方です。スキーシーズンにもよいところですが、ちょっと不便ですが、電話をしておけば送り迎えしてもらえます。

小熊山荘

但本栄治郎

◇ 石川真知子様

広島市 8月6日

創立15周年記念の“ヒマラヤとシルクロード大作戦” 壮大な計画、私も参加させてもらいたいなあと思いをふくらませています。お陰様でまた楽しみが増えます。

◇ Oxford Book & Stationery Co.

ニューデリー 8月26日

H A Jの会員の方がときどき店に寄って下さい。小店ではヒマラヤの古本が沢山あります。(ニューデリーのコンノート・サーカスの近くにある古本屋。本店はカルカッタにある。良心的で親切です。)

住所は Scindia House, New Delhi — 110001, Tel 45896 & 48608.

カルカッタ店は、17, Park Street, Calcutta)

◇ 荘司昭夫様

秋田市 9月6日

H A Jでは中国側からのヒマラヤ登山申請はおこなわれないのでしょうか。(すでに2年前からチベット研究会を通じてアプローチしています。見通しは不明ですが、早い機会に実現させるつもりです。興味のある方はチベット研究会に入会して下さい。)

チベット研究会事務局 増田秀穂方

◇ Dr. F. M. ハスナイン

カシミール 9月3日

元気でやっています。この夏から秋にかけて、私はラダックのガルクン(Garkun), ダー(Dah)ハノ(Hano)の村へギリシャ系住民の調査に行きました。ギリシャ系の人々がチトラル地方に住み、カフィリス人として知られていますが、それと同じ人種がラダックに住んでいるのです。このことは1959年にイタリアのヒンズークシュ隊がサラグラールに行ったときの報告 “Where Four

Worlds Meet”というフオスコ・マラーニの書いた本にでています。多分アレキサンダー大王と同じころ、一緒に来たのだと思います。

◇ 森田稲吉郎様 (労山)

長野県上田市 6月29日

先日はH A Jの東日本ヒマラヤ研究会で大変お世話になり、また勉強をさせていただきまして有り難う御座居ました。改めて、ヒマラヤの広さと深さを知らされました。(中略)

今夏8月1日～9月20日にかけてインドを訪問してきます。日程の半分は、下界の生活にあててインドの山岳界との交流に当ててみるつもりです。時間があればナインタール山岳会の人達とMilam・Gに入ってみようかと考えております。又、ダーズリンからシッキムへもと欲張った計画を立てております。

私もインドについては始めたばかりで勉強不足ですが今回は大いに吸収してきようと考えております。特に、ナイタールとカルカッタにはかなり滞在しますので資料や情報を大いにあつめてみようかと思ひます。(中略)

インドに着きましたら、何回か「ヒマラヤ」への通信を送らせていただきます。今回はIMFの表敬訪問(全国労山)で、サリーン会長やチャクラパティ氏ともかなり接触します。又、Capt, Chandraとも会うようになると思ひますので、色々情報が入ると思ひます。GUHA氏のところは3～4日滞在してきます。色々話をしてみようつもりです。

ナインタールはチーフリーダーのANUPSAH(ナインタールM・C)がナンダの偵察に同行しますので、数日間滞在してきます。昨年も5名がNMCに大歓迎されあまりの接待でビックリしましたので、今年はどうなるか心配しているところです。ナインタールM・Cは田舎の山岳会ムードで、外国人となると注目されるようです。

帰路はカルカッタからダーズリン、シッキムに入ってみます。シッキムは2日間、ダーズリンでPermitがとれるとのことでした。

9月25日頃に帰国ということになりそうです。長野の労山の方で1978年にハルディオールカパンチュリをねらいますので、サリーン会長にコンタクトしてみるつもりです。合同隊を考えます。

◇ 阿部 淳様

北海道 7月16日

過日、札幌でH A Jの世話人会を開催。大崎氏をはじめ世話人の方々(中川、石崎、堀内、石川の諸氏)もみな熱心にやってくれており、ホッとしている次第です。

6月の集会(5月分)も二十数名集まりましたし、7月も同様の顔ぶれになると思ひます。タメになる内容と、何か資料としてのお土産があると集まりがよくなりますので、今後も地味な研究をまとめて発表するよう話し合っております。

宇都宮集会は出席できず残念でした。次の機会には、ぜひ参加させて戴こうと思っております。

◇ 加賀 勝様(ドウナギリ隊長)

ニューデリーにて 7月5日

日本では初夏となり、暑い日が続いている事と思ひます。デリーでも毎日40度近い暑さが続いています。インドに来て以来、一度も便りを出さず失礼しておりました。さて、私共の遠征ですが、すでに情報が入っているかと思ひますが、6月6日アタック隊3名が約6800m地点の頂上ドーム直下に迫りながら天候悪化の為、登頂を断念いたしました。ドウナギリはやはり頂稜が長く6600mの肩に第4キャンプを張りましたが、そこから頂上まではどこにもビバークサイトが見つからない、ナイフリッジであり、コブの連続でした。よほどの体力でなければ頂上にはとどきそうにも有りませんでした。東北のH A J会員のご声援に答える事ができず申し訳なく思っております。この件、後日詳しくご報告させていただきます。

私は登山終了後、10日間程スリナガルに行つて来ました。踏査隊(ザスカル踏査)の準備のためでした。スリナガルではMr. Fida氏にお世話いただきました。スリナガルははじめてでしたが、実に素晴らしいところです。インドにも泉のこんなにも美しい所があったのかと驚きました。また周辺も実にすばらしいです。グルマルグ、パハルガムにも行きました。私も踏査隊の連中とカルギルまで行きました。カルギルまでの谷の美しさは言葉に云い尽くせない程です。次回は是非ラダックにトレックしたいと思ひます。今年のカシミールのポーター賃は上がった様です。私は、Mr. Fida氏のところにいるラザーク氏とパハル

ガムからポーターを連れて来ましたが、1日60Rs
でした。ガルワールの4倍なのに驚いています。
トレッキング(とくにラダック、ザスカール)に
行くポーターは少ない様です。カシミールでは
ポーターを使用する場合はかなりの費用をみなけ
れば予算にくるいが生じるとしています。

「Ladakh The Moonland」をスリナガール
で購入しました。Ladakhを知るには最も良い本
です。帰路読みながら帰国いたします。次回は是
非ラダックを歩きたいと思っています。

◇ 河西俊郎様 諏訪市 7月14日

最近のカラコルム・ブームにとまどいをおぼえ
ています。HK会議もK₂へむかいますが、いろ
ろと感ずるところがあります。目的のためには手
段を選ばずといった人もいます。大切にす
べきことを見失わないような岳人になりたいと
思っています。また、見知らぬヒマラヤの地を訪
れたいと考えております。(後略)

◇ 内田嘉弘様 京都 7月20日

ヒマラヤ遠征、相変わらず日本隊が多いですね。

5月29日(土)愛知製鋼の

鶯沼荘、泊(21名)、30

日(日)、朝から犬山城見学、

犬山駅(名鉄線)市役所裏の岩田洗心館(美術館)
見学の後、明治村散策。強い雨にみまわれ、各館
に見学というより、雨やどりに逃げ込むといった
具合で、須賀玄郷氏の解説宜しく、犬山城の天守
閣よりながめた尾張富士、本宮山、又、東海自然
歩道を歩く事ができなかったものの、来年は天候
に恵まれる事を祈って、名古屋駅で解散した。

山里寿男画伯が、銀座・松屋で個展を開かれた
際、6月13日(日)有力会員3・4名集合して、第6
回ビスタリークラブは、来年の6月の第1日曜日



第5回ビスタリークラブ集会開く

H A Jで40才以上の者のみで7000 mクラスへ
の遠征を考えてみてはどうでしょうか。

それぞれの専門を生かした調査も含めて、息の長
いヒマラヤ行の1つのケースとして面白いと思い
ます。

◇ アッサム研究会だより

事務局 153 東京都目黒区東山
2-16-2-301

藤 井 毅

7月8日、9日の両日、アッサム農業大学茶学
部長、Dr. P. C. Boraと東京で会いました。
インド大使館や航空会社などを訪問したあと、東
京の名所をご案内しました。

アッサムやアルナチャルのこと、Dibrugarh
Univ.人類学部などのことなど興味深い話をいた
しました。(7月15日)

(Dr. Bora は9月下旬まで静岡県金谷市の茶
業試験場に滞在されます。9月13日のH A Jの名
古屋集会にご招待してアッサムの話をお聞きしま
した。

に「寸又峡」と決定。尚
詳細は追って会報にお知
らせします。(黒沢文代記)

〔出席者〕堀田真、山口温夫、前田清、増田秀穂
岩水竜峰、羽根田一馬、水野治朗、森岡武一、森
岡悦子、黒沢文代、荒井美知子、関谷節子、佐野
加代子、松本香代子、須賀玄郷、折戸正明、折戸
真理子、加藤教子、瀧上弘子、井上みはる

<ミニ・ニュース>

地方・小出版流通センター

地方出版や自費出版の本を専門に扱う本屋さん
が東京神田にこの4月からオープンしています。
「お茶の水」駅から駿河台下へ行く途中、「主婦
の友社」の反対の道を入った途中の喫茶店、
「タロー」の2階にある「地方・小出版流通セン
ター」がそれです。住所は神田小川町3-14 第
1 萬水ビル2 F 電話 03-291-8474 番。平日
午前10時~午後7時、日曜は休日です。まだ、中
央アジア、ヒマラヤ関係はH A Jの本くらいしか
ありませんが、民俗や地方史など沢山あります。
小売だけでなく御売や取次の仕事もしています。

新刊・旧刊

◇ 再次登上珠穆朗瑪峰

1975年 北京 外文出版社発行 1500円

昨年(1975)の5月27日、日本の女子エベレスト隊について 成功した中国登山隊の様子を伝える写真画報。日本文タイトルは「世界の最高峰 チョモランマ峰の登頂に再び成功」となっており、本文は漢文であるが日本人のためには親切に日本語の訳文が別につけられている。なつかしいエベレストの北面やラサのポタラ宮殿の写真が目を引き。登山隊の行動をあますところなく伝え、頂上に立った女性1人を含む9人の姿や、頂上の隊員の心電図を遠隔操作で記録したり、測量ポールを頂上に立てるなど興味ある。また北面からのパノラマも珍らしい。しかし総じて前回の疑問視された登頂時の写真集と共に、思想宣伝色が強く、何か違った世界の物語であるが、知られていない中国の登山を知るにはよい。(S)

◇ 黒いヒマラヤ

陳舜臣(ちんしゅんしん) 中公文庫 340円

カンチェンジュンガは直接、関係ないがこの推理小説のいたる所に名がでてくる。連続殺人のおこったカムドンとはカリンボンのことだろうか。チベット解放によって追われたラマの宝石をめぐる人間欲。日本人学術調査隊のカメラマンが第一被害者。(H)

◇ 平山郁夫シルクロード展

東京展(高島屋デパート 4月22日~27日)の後、大阪、京都、名古屋、横浜、広島を巡回。

仏教美術に深い関心をもっていた平山は、シルクロードにその源流を求め、ここ数年、旅にでていた。その成果はデッサン集となって読売新聞社から出版されている。(1975. 3) 今回、他の作品もまじえ紹介する。有料。

後述の「火の路」が「火の回路」と題されて朝日紙上に連載していた時、さし絵をかいたのは、利根山光人だった。(H)

◇ サリーの女たち 田中於菟弥編
評論社 51年3月 1300円

「世界の女性史」の中の第15巻<インド>である。あの、あるときはエキゾチック、またあるときはなまめかしいサリーをまとったインド女性の生きてきた姿を通俗史としてまとめたもの。(O)

◇ 火の路

松本清張 文芸春秋 上下各 1300円

飛鳥遺跡の謎を古代日本に渡ったとする拝火教(ゾロアスター教)に求める女流史家はイランまで足をのばす。大胆な仮説設定と飛鳥の盗掘者殺人事件をからませる。シルクロード初期の宗教、拝火教の簡単な入門書としても読める。

4月8日から毎木曜日7回にわたりNHK総合TVでドラマ化している。午後10時15分から。(H)

◇ めろ・さてい No.2

九州大学山岳会 76年1月20日発行

71年ポストの九大ダウラギリVの遠征で雪崩のために遭難した千々岩隊員の追悼とダウラVの遠征記録である。他に会員の海外での山行記録が収められている。なお72年に追悼文集「ダウラギリへの道」が家族から私家版として出されている。

◇ サンガイ・ジウネ・コラギ みんなで生きるために

米子青年会議所 73年7月25日

71年より米子青年会議所が実施したネパールキャンペーン(ネパールにジープを送る運動)の報告。会員がネパールを訪れて見聞した記録で沢山の写真が載っている。子供達やネパールの人達の生活が良くわかる。

◇ NHK教育テレビ大学講座

乾燥アジア史 講師 岩村 忍

1976.4~9月 土曜日午前6時30分~7時再放送 同日午後11時30分~12時。

シルクロード関係のNHK番組は多い。この番組は最も基礎的な歴史を解説する。テキスト230円 (H)

ヒマラヤの本 資料

※ ヒマラヤ関係のものが出版されましたら紹介しますので、名古屋事務所へ1冊お送り下さい。

書名・発行年など	発行所など	頒 価	送 料
カンジェラルワ初登頂・1973年HAJ 隊公式報告・特価1600円	HAJ	2000 (円)	200 (円)
ヒマラヤをめざした越中人たち 橋本 広	窓出版会	1,400	200
カシミールとラダック 1974年	名城大	900	100
秘境小チベット・ラダック (地図つき)	HAJ	2,400	300
HAJ ガンジロバ隊帰国報告書	"	300	0
東海山岳Ⅱ	JAC	800	100
東海山岳Ⅲ	"	2,500	300
チベットとラダック	HAJ	1,000	200
カシミールの街と山 ネパールへの旅	"	各 600	100
ヒマラヤの桃源境、プータン・シッキム・アッサム	"	2,200	300
ヒマラヤを歩き登るために、第4、5回東ヒマラヤ研報告	"	2,400	300
HAJ インドヒマラヤ遠征帰国報告 1975年	"	600	140

「ヒマラヤ通信」「ヒマラヤ」バックナンバーは下記のものしか残部がありません。

第1号 (20円) , 第2号 (20円) , 第9号 (50円) , 第17号 (150円) , 台本製本用紙 (200円) , 第23~ (25, 27, 28, 35, 36, 38, 39, 42は品切)。各送料共400円に割引。会員のみにしかお分けできません。

上記ヒマラヤ関係資料の注文は先着順に受付。通信での申込は代金を添えて下さい。

〒468 名古屋市天白区一ツ山1-44-7 HAJ 名古屋事務所 郵便振替 名古屋 21645 番
銀行振込 東海銀行鳴子支店 185-338 番「日本ヒマラヤ協会」

郵便振替振込用紙はどこかの郵便局にもあります。送金料も安くて便利ですのでご利用下さい。

若干のHAJ出版物は下記の店で扱ってもらっています。親切にサービスしていただける店です。

京 都	…京都市下京区四条河原町東81	海南堂 (四条河原町電停角)
兵 庫	…宝塚市中州1丁目15-2 逆瀬川ビル内	大野屋書店
H A J 出 版 物 特 扱 店	神 戸 …東灘区魚崎北町1-6-10	トモミツ縫工
大 阪	…北区小深町3-1 (阪急三番街)	紀伊国屋・梅田店
東 京	…千代田区神田駿河台2-1	茗溪堂 (お茶の水駅前)
東 京	…江戸川区西小岩5-18-10	小林静生書店 (古書もあり)
東 京	…文京区湯島1-6-1 利根川商事	さくらビル内 日本山岳会
横 浜	…鶴見区鶴見町3601 (豊岡通り)	西田書店 (古書もあり)
名 古 屋	…千種区千種駅前	ちくさ正文館
札 幌	…中央区南3条西3丁目4番街	成美堂 (札幌駅前通り)
広 島	…広島市本通1-7 (金座街)	アカデミィ書店
福 岡	…福岡市中央区天神2丁目9-110	福岡金文堂 (新天町)

* 地方の出版物多数

とり揃えています。

株式会社 地方・小出版流通センター

東京都千代田区神田小川町3-14 第1萬水ビル2F
〒101 TEL 03-291-8474

HAJ 1976 ~ 1977 ヒマラヤ・ツアー

お問合せお申し込みは下記へー打合せは毎月第1, 第4 金曜日の東京定例集会(於: HAJ 東京事務所)
などヒマラヤ集会で。

主催(株)トラベル日本(一般登録67号)〒100 東京都千代田区有楽町2-2-1ラクチュウビル5 F(電)03-574-0241(係 外 池)
後援 HAJ・企画フロンティア 〒164 東京都中野区中央3丁目45-18沢本ビル1 F(電) 03-365-2162 (担当 鈴木)

出発日	地域・ツアー名	期間(日)	費用 (千円)	〆切日	定員	添乗員
12月26日	ネパールの旅	14	289	9月末	20	前半のみ
"	ガイドつきネパールの旅	14	372	9月末	20	有
"	ファミリーツアー, ネパールの旅	※ 14	348	9月末	40	有
"	ファミリーツアー, ガルワルの旅	※ 14	348	9月末	40	有
"	ネパール・トレッキング	28	289	9月末	20	無
"	山里先生とネパールスケッチの旅	※ 28	493	9月末	20	有
"	アッサム・シッキム調査隊(14日間も可)	※ 28	400	8月末	20	無
"	ビルマとダーズリン	14	379	8月末	20	有
2月13日	黄金のバゴダと雄大なカンチェンジュンガの展望	15	385	12月末	20	有
3月16日	シルクロード・ソ連の旅	※ 19	398	12月末	20	有
4月21日	ガルワル・ヒマラヤの奥地と野生動物を訪ねて	18	389	2月末	20	有
4月21日	インド放浪の旅(自由旅行)	24	230	2月末	20	前半のみ
4月28日	ネパール・ビスタリー・ツアー	11	378	2月末	20	有
7月24日	小チベット・ラダックと未知なるザスカル山群へ	28	372	5月末	20	後半のみ
7月28日	カシミールの花や氷河を楽しめる(自由旅行)	18	315	5月末	20	有
7月28日	世界の屋根を行く(ラダックを車で一周)	※ 18	450	5月末	20	前半のみ
8月7日	東洋のスイス・カシミール・バカンス旅行	14	372	6月末	20	有
9月11日	シルクロード・アフガニスタンの旅	※ 14	398	7月末	20	有
9月15日	インド放浪の旅(自由旅行)	24	230	7月末	20	前半のみ
9月15日	ヒマラヤの高山植物を求めて	17	369	7月末	20	有
9月29日	ネパール・ビスタリー・ツアー	11	378	7月末	20	有
10月9日	インド放浪の旅(自由旅行)	28	230	8月末	20	無
10月27日	ネパール・ビスタリー・ツアー	11	378	8月末	20	有
11月13日	インド放浪の旅(自由旅行)	28	230	9月末	20	無
12月25日	ガンジス源流を訪れる, 聖地を巡る旅。	14	379	11月末	20	有
12月25日	ネパール自由トレッキング	28	261	11月末	20	前半のみ
12月25日	アンナプルナを望む丘へ小トレッキング	14	348 (247)	11月末	20	有(子供も可)
12月26日	雄大なカンチェンジュンガとネパールの休日	14	381	11月末	20	有
12月26日	ネパール自由トレッキングツアー	17	261	11月末	20	前半のみ
12月29日	ネパール・ビスタリー・ツアー	11	378	11月末	20	有
12月25日	第3次アッサム・シッキム調査隊	※ 28	423	8月末	20	前半のみ

上記の日程や費用は51年6月1日 を基準としており、航空機、現地の都合で予告なく変更することがあります。詳しい日程表などがありますのでご請求下さい。(※印は HAJ 会員のみ参加可)

一山里寿男先生と共に ネパール・スケッチの旅一

日 程 表

日次	月 日(曜)	都市名	時間	交通機関	摘 要
1	12 26 日	東 京	12:30	A1301	羽田より空路にて、ニューデリーへ。
		デ リ ー	23:10		到着後ホテルへ。
2	12 27 月	デ リ ー	08:00	RA206	デリーより空路にて、ネパールの首都カトマンズへ。
3	12 28 火	カトマンズ	09:25		トレッキング出発準備。
4	12 29 水	カトマンズ	滞 在	車	早朝カトマンズを発ち舗装された道路をボカラへ。約8時間のドライブ。トレッキング開始。
5	12 30 木	ボカラ/ベティ			毎日約5時間、あなたはサブザックのみで歩いていただきます。
6	12 31 金	ベティ/ビレタンティ			
7	1 1 土	ビレタンティ/ガンドルク			
8	1 2 日	ガンドルク/チョムロン			
9	1 3 月	チョムロン/ドバン			
10	1 4 火	ドバン/アンナプルナ・ベースキャンプ			
11	1 5 水				アンナプルナ・ベースキャンプ滞在。 雪と氷の美しいアンナプルナ内院を小トレッキング、スケッチ山行を楽しみます。夜はたき火を囲みシェルバと共にロキシーやチャン（地酒）を飲み、唄い、踊って過します。
15	1 9 日				
16	1 10 月	BC/ドバン			往路と同じ道を引き返す。
17	1 11 火	ドバン/チョムロン			
18	1 12 水	チョムロン/ガンドルク			
19	1 13 木	ガンドルク/ビレタンティ			
20	1 14 金	ビレタンティ/ノウダラ			
21	1 15 土	ノウダラ/ボカラ			
22	1 16 日	ボカラ	滞 在		アンナプルナを映すベワ湖で舟遊びをしたり、バザールでお買物をお楽しみ下さい。 車にてカトマンズへ戻る。
23	1 17 月	ボ カ ラ		車	
24	1 18 火	カトマンズ	滞 在		午前中休養、午後より市内観光。
25	1 19 水	カトマンズ	#		終日自由行動。
26	1 20 木	カトマンズ	16:05	IC414	午後の便でニューデリーへ。
		デ リ ー	17:30		着後ホテルへ。
27	1 21 金	デ リ ー	18:55	A1306	午前中自由行動、夕刻の便にて羽田へ。
28	1 22 土	東 京	11:20		通関後解散。

◎上記日程は、現地事情、航空機、天候などの都合で変更することもありますので御了承下さい。

出 発 日：76年12月26日～77年1月22日、28日間

募集人員：20名

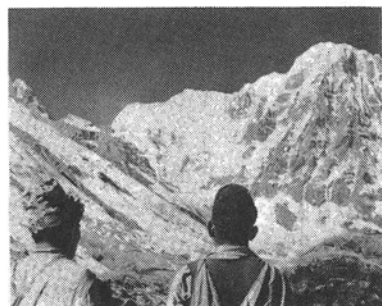
申込〆切：10月末（定員になり次第〆切ます）

費 用：493,000 円（昭和51年6月1日基準）

参加資格：日本ヒマラヤ協会々員（会員でない参加者は入会して頂きます）

中世紀を思わせる石畳や家並、素朴な人々の生活、そしてアンナプルナ南面の雪と氷の美しく厳しいヒマラヤを楽しむ仲間とスケッチ・トレッキングします。夜はたき火を囲みチャンやロキシー（地酒）を愉快的なシェルバ達と共に飲みながら唄い踊り楽しめます。

山里寿男先生による指導とアドバイスでネパールの澄んだ空気、青い空、白い氷、そして村人達をあなたの手でスケッチブックに埋めて下さい。そしてこの旅で絵を描く楽しさを味わって下さい。事前に山行合宿をおこないますので早目にお申込み下さい。



内院入口よりアンナプルナ・サウス（大崎）

山里寿男先生の略歴

1931：東京生。1955：東京芸術大学油画科卒。1955より銀座松屋他ににて個展15。1966：ヨーロッパアルプス取材のため渡欧。1969：韓国取材のため渡韓。1970：ネパールヒマラヤへ（アンナプルナ・ヒマール、エベレスト方面を取材する。）1971～72：日本ヒマラヤ協会主催ツアーのゴラパニ班リーダーとしてゴラパニ方面へ入る。その後ザインクンドへ。1972～73：日本ヒマラヤ協会主催ツアー「山里先生と共に」のリーダーとしてクンプ地方に入る。1974：ヨーロッパアルプスへマッターホルン他に登る。現在：日本山岳画協会会員。日本山岳会会員。日本ヒマラヤ協会会員。日本ネパール協会会員。

主著：「ハンド・イラストレーション」「登山者のためのスケッチ入門」

「画文集ヒマラヤ」、 「山岳画の描き方」

問合せ・H A J 東京事務・鈴木康志

ヒマラヤの旅はヒマラヤのヨロズ屋へ

トレッキングからエクスペディション
まで全て引き受けます。

装備貸出・シェルパ斡旋・現地食料調達
国内外輸送手配・別送貨物通関・ヒマラヤ情報……

EXPRESS TREKKING (P) LTD.

EXPRESS HOUSE

NAXAL BHAGABATI BAHAL

P. O. BOX339 KATHMANDU NEPAL

電略 GREATREK・KATHMANDU TEL. 13017

カトマンズの宿泊は EXPRESS HOUSE
をご利用ください。

家庭的なムードで宿泊代も安く気軽に泊れる宿です。
特に日本のお客様には大浴場が好評です。自炊もでき
ます。 宿泊代＝1泊朝食付30RS から

※長期滞在者はご相談に応じます。

日本語でお問い合わせください

インド大陸、中近東方面へ当社独自のプランをいたしております

ツアー名

- ★シルクロード 6,000キロ
- ★ネパールとアフガニスタン
- ★砂漠の国アフガニスタンと最
後の桃源境フンザ
- ★大ペルシャとアフガニスタン

——お問い合わせは下記まで——

(株) ト ラ ベ ル 日 本

〒100 東京都千代田区有楽町2-2-1

ラクチュウビル5F 電話 (03) 572-1461

担 当——^{とのい}外池・永瀬・月候・小島

海外登山，トレッキングに傷害保険を

——海外旅行傷害保険(運動危険担保特約付)について研究しております——

タケ

岳 産 業 にご相談して下さい。ノ

あなたの所得を補償する保険をご存じですか？(所得補償保険)

●所得補償1～5年，傷害特約60～120倍までいろいろあります

自動車・火災・レジャー(山岳保険・国内旅行・つり・ゴルフ・ヨット)・普通傷害・利益
・生産物等の私達の生活に関連した保険を取扱っています。岳産業の西田までご連絡下さい

大正海上火災
保険(株)代理店

タケ

岳

産 業

大阪府淀川区西中島町5丁目第3チサン10F 6号 〒532
TEL 06 (304) 1115番

●ルスノトキ＝大正海上十三営業所 304-5774

大自然の神秘と雄々しさ、
ガッツなトレッキング——ヒマラヤ

東はブータン・シッキムから、西はガルワール・ラダック、そしてカシミールへと三千キロ。実に、ヨーロッパ・アルプスの二倍です。雄大な八千メートル級の巨峰の連なるヒマラヤを自分の足で踏みしめ、自分の肌で感じるワイルドなトレッキングは、どのレジャーも及ばないスケールの大きさと心の安らぎを与えます。

ノ・公署

時間に追われ、人間関係のわずらわしさに悩み、たまには仕事から逃げ出したいと思っている都会のビジネスマン達。彼らにこのヒマラヤ山麓の魅力を教えてあげてください。8000m級の巨峰が連なる大自然の景観。斜面一帯を華やかに色どる花園の美しさ。海拔4865m、常に雪塊や氷塊をたたえているアルハルウツ湖の神秘的な静けさ。すべてが彼らの求めている超現実的な世界です。ダーズリン

ヒマラヤのリゾートタウン「ダーズリン」は海拔2134mの高地にあります。インドの上流階級や外国人たちの別荘も多く、健康的な雰囲気にあふれた街。このダーズリンの南東わずか11キロの地点にあるタイガ・ヒルから望むカンチエンジュンガ(世界第三位)やエベレストの偉観は、文字通り世界最高のものである人の心に衝激にも近い感動を与えずにはおきません。

ダーズリン

ヒマラヤのリゾットタウン（ダージリン）は海抜21344mの高地にあります。インドの上流階級や外国人たちの別荘も多く、健康的な雰囲気にあふれた街。このダージリンの南東わずか11キロの地点にあるタイガーン（世界第3位）やエベレストの偉観は、文字通り世界最高のもので、見る人の心に衝激にも近い感動を与えずにはおきません。

シツキム

ごく最近まで鎖国状態であつたシツキムへ入境することができるようになりました。観光客のほとんどない現代の「桃源境」とはこのことですよ。王宮を中心に神秘の国が、静かなたたずまいを見せています。

ダーズリンからの途中にあるカリンポンの町も、長期滞在に向いた静かなリゾート。買物も楽しい思い出になるでしょう。

〔註〕 シッキム入境の場合はインドのビザとは別に特別許可が必要で詳しくはエア・インディアにお問い合わせください。

ガルワル・トレッキング

カウチン地区に、テリ、の北東400キロの地点に、1974年7月から外人に解禁されましたナンダデビー(7816m)や、ガンジス川の源流近くにあるヒンズー教の聖地をたづねるトレッキングや、高山植物の宝庫「花の谷」4000mをこす山岳湖への旅が楽しめます。



世界の35都市をネットする

エア・インテイク

一 東京●千代田区有楽町日比谷パークビル〒100☎214-7631

大 阪●東区備後町松豊ビル〒541 ☎264-1781

名古屋●中村区堀内町ホテルニューナゴヤ〒450 ☎583-0747

店 島●鉄砲町1-20第3ウエノヤビル〒730 ☎28-7211